

令和7年度 くわなっ子教育ビジョン 外国人児童生徒教育の推進

桑名市教育委員会

現状課題

- ・ 外国人児童生徒の拠点校以外の散在化
- ・ 母語の多言語化(21か国・19言語)
- ・ 自己実現につなげる学習言語能力の積み上げ

めざす姿

日本語指導が必要な外国人児童生徒が、日本語で学ぶ力を身につけ、自信や誇りを持って学校生活を送り、将来社会で自立していく力を身につける

主な実施事業

学校の指導体制の充実

- ・ 「桑名市版日本語チェックリスト」等による日本語力の把握
- ・ 「特別の教育課程」の編成・実施(100%実施)
- ・ ICTの効果的な活用
- ・ JSLカリキュラムの活用・授業改善の推進
- ・ 異文化理解・多文化共生の推進

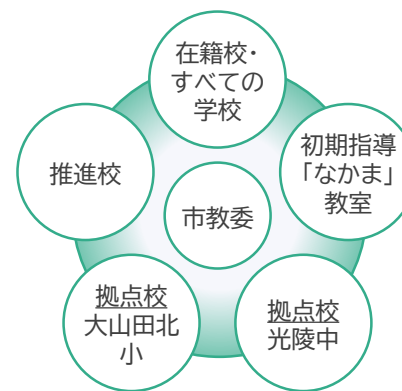
就学や進路選択への支援

- ・ 就学前日本語力チェックテスト(対象児50名)
- ・ 夏季学習会(ガンバチアンド)(昨年比のべ100人増)
- ・ 進路ガイダンス(参加率:小学生40%・中学生60%)
- ・ 外国人児童生徒交流会
- ・ 外国につながる子どもの情報共有
- ・ 就学前から高等学校等進学までの途切れのない支援
- ・ 母語による通訳・翻訳(総通訳時間:昨年度比106時間増)

初期日本語指導教室「なかま」
(拠点校:大山田北小学校)

協議会等の設置と連携

- ・ 外国人児童生徒教育担当者連絡協議会(年2回)
- ・ なかま教室運営協議会(年1回)
- ・ 拠点校運営協議会(年1回)
- ・ 日本語指導協力員研修会(年3回)
- ・ 国際ミーティング(年1回)
- ・ 桑名市外国人児童生徒教育運営協議会(年1回)



市教委を中心として事業や指導方針の周知、拠点校や推進校からの情報発信等、市内全小中学校の日常的な連携を図る。

成果指標

日本語指導が必要な児童生徒の在籍の有無に関わらず、外国人児童生徒教育に関する校内委員会を校内組織の中に位置づけ、学校として組織的に取り組んでいる学校の割合

~R11
目標値

80%